

「2022なかの東北応援まつり」等の開催概要について

1 趣旨

これまで10年間に渡り、東日本大震災で被災された地域への継続的な復興支援のため、「東北復興大祭典なかの」を開催してきた。

今後は、継続的な復興支援の趣旨を引継ぎ、東北各県の特産品・グルメ品の販売や観光・文化などの魅力の発信を通じて、東北各県をさらに応援していくことで、東北各県との絆と連携の一層の強化を図るとともに、中野区民や区内事業者の参加を促すことで、中野区の地域振興に努めることとし、東日本大震災の記憶の風化防止と中野の賑わいを創出するイベントとして開催していく。

2 祭典名及び主催者

(1) 「2022なかの東北応援まつり」(以下「応援まつり」という。)

(サブタイトル:ねぶたをはじめ、東北6県のお祭りが大集合!)

主催 なかの東北応援まつり実行委員会

※継続的な復興支援の思いを持ちながらも、これまで築いてきた東北各県との絆を大切に、連携を一層強化し、中野区の地域振興につながるイベントとして開催していくとのコンセプトにより、「東北復興大祭典なかの」から名称変更し開催する。

(2) 「震災復興祈念展」

主催 中野区

3 開催日時

2022年10月29日(土) 午前10時～午後8時

30日(日) 午前10時～午後5時

4 会場配置及び開催内容

(1) 中野サンプラザ前広場 (A会場)

式典、ステージ、物産品販売ブース

(2) 中野駅北口バスロータリー(B会場)

特産品販売及びグルメブース

(3) 区役所1階及び区役所前広場、「震災復興祈念展」(C会場)

特産品販売及びグルメブース、子どもコーナー、跳人受付、総合案内

※震災復興祈念展

震災の記憶風化防止コーナー、東北各県及び東北絆まつり関係市の観光PR、自衛隊被災地救援活動紹介コーナー、防犯・交通安全コーナー等

(4) 中野四季の森公園イベントエリア

ア 東北絆まつり関係市主要行事のPR・演技、ねぶたの展示、救護所

イ 震災復興祈念展関連:起震車体験、防災意識啓発コーナー

5 パレード(ねぶた運行、東北絆まつり、黒石よされ等)

中野四季の森公園北側直線道路を交通規制し、実施する。

29日(土):午後5時～午後6時30分(ねぶた運行:午後5時40分～)

30日(日):午後1時～午後2時20分(ねぶた運行:午後1時30分～)

6 応援まつりの執行体制

応援まつりは、実行委員会に分科会を設置し、企画立案・運営を掌る。

なお、中野区は東日本大震災復興広域協働推進室が実行委員会の事務局となり、応援まつりの全体調整を行うほか、区の実行委員会の進行管理を行う。

7 区民参加促進や運営体制強化に向けた取組

(1) 中野区民や区内事業者の参加促進

ア 各ステージやイベント等に区民や関係団体等の参加を募っていく。

イ 区民や関係団体等へ働きかけ、ボランティア参加を促進していく。

ウ この他、今後も実行委員会や関係団体等と協議しつつ、工夫を重ね、区民参加の促進を図っていく。

(2) 自主財源確保強化に向けた取組

ア クラウドファンディングの実施

ファンディング名:READYFOR

実施主体:なかの東北応援まつり実行委員会

目標金額:100万円

募集期間:2か月程度

謝礼:御礼メールや飲料等

イ 広告協賛

関係団体等への働きかけなどを通じ、広告協賛の確保に取り組んでいく。

ウ この他、今後も実行委員会と協議しつつ、工夫を重ね、自主財源確保強化を図っていく。

8 東北各県・市町村との交流連携強化に向けた取組

(1) 交流連携強化に向けた取組

これまでの「東北復興大祭典なかの」を通じて関係を構築してきた自治体については、引き続き、必要な協議等を通じて、相互の交流や連携などの強化に努めていく。

なお、本年8月に区として青森県青森市、黒石市、岩手県盛岡市へ訪問し、今後の交流連携強化等を協議、確認した。今後、他の関係自治体に対してもこうした取組を継続的に行う。

(2) 黒石市との交流連携協定について

今般、「東北復興大祭典なかの」の平成24年当初開催から、相互の交流を深めてきた黒石市との間で、両自治体のそれぞれの特色、魅力を最大限活用した観光・産業振興、スポーツ、学術、文化・芸術を通じて、市民の交流促進など、持続的な交流連携を促進することを目的とした、「黒石市・中野区 交流連携協定」の締結について、協議が整ったところである。

なお、平成26年4月9日に、青森市と同内容で協定を締結しており、今後、他の関係自治体とも交流連携の進展等を踏まえつつ、協定の締結などについて協議していく。

9 広報・周知について

ポスター、チラシ、区ホームページ、区報、SNS(ツイッター、インスタグラム)などにより行う。